

Q.

ワサビ+ノド飴で  
がんの薬に？



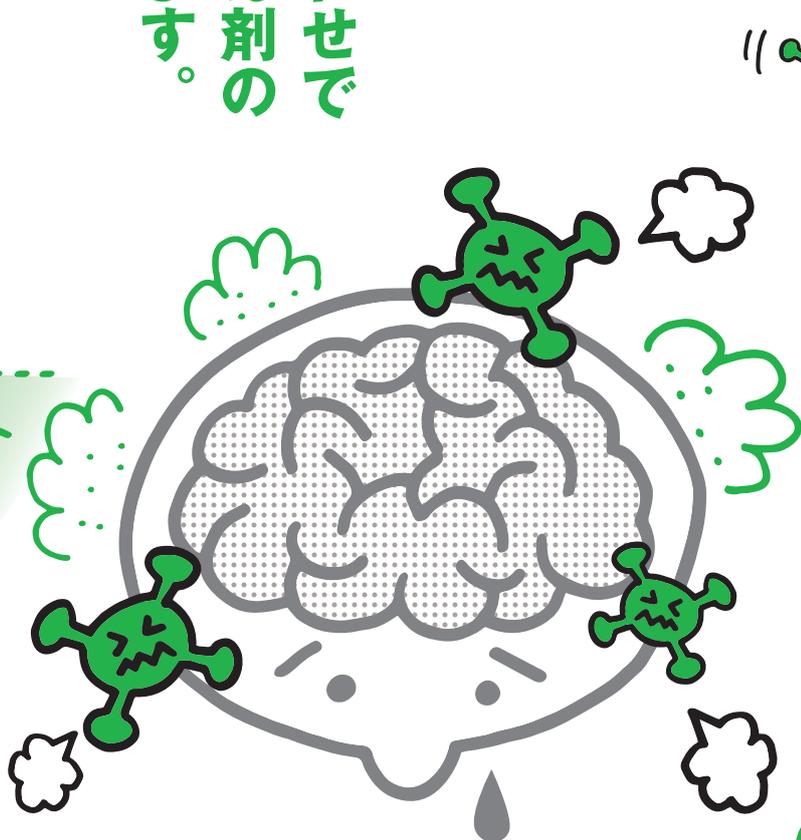
新しい抗がん剤の開発に対して、  
農学の分野からアプローチ。

日本人の死因第1位はがんです。統計的には2人に1人が生涯のうちにがんにかかると言われていています。がんの治療には抗がん剤が用いられますが、今の抗がん剤は副作用が激しく、髪の毛が抜けたり、吐き気を催したりする症状が現れることがあります。そこで、副作用のない抗がん剤はできないかということで始まったのがこの研究です。まず副作用のないという観点から、自然の中に生息し、伝統的に使われている2つの食品に注目しました。それがワサビと甘草です。ワサビは普段、薬味として使われているものだし、甘草は漢方薬やノド飴の成分として使われています。この2つの成分をブレンドして与えると、がん細胞は殺しても正常細胞は死なないことがわかりました。つまり、副作用がないということです。

自然食品の組み合わせで  
副作用のない抗がん剤の  
完成を目指しています。

いろいろ種類のあるがんの中で、  
脳腫瘍に効く薬の開発に  
つながる研究に特化。

ワサビや甘草に限らず、人は昔から農作物を食用のほか薬にも利用してきました。そうした作物の、どの成分が何に効果があるのかを私たちは研究しています。ワサビと甘草の組み合わせが抗がん効果を発揮するのは、脳腫瘍といわれるどちらかというとマイナーなジャンルのものですが、それでも年間500~750人の子どもたちが発症しています。開発にかかる費用、開発後の需要を考えると、どうしても発生頻度が少ない病気の薬剤は後回しにされがちですが、そうしたジャンルに目を向けることこそ大学の研究だと思います。まだまだ道のりは遠く、今はまだ実験室レベルの成功にすぎませんが、自然の持つ未開の力を利用し、いつの日か副作用のない抗がん剤ができることを夢見ています。



学生時代の  
マイブーム

山口 秀明 先生

PROFILE

農学部出身ながら、薬学部にも籍を置いた経緯を持つ山口先生。その関係もあって副作用のない抗がん剤の研究を始めたそうです。多機能性を持った自然植物の研究は、将来の農業の発展や人々の健康につながっていくと確信されています。

ミクロの世界に魅了される、  
顕微鏡オタク。



とにかく小さな世界を覗くのが好きなので、顕微鏡は手放せない存在。自分でも根っからの顕微鏡オタクだと思います。昔、先輩からいただいた顕微鏡を今でも大事に使っていますし、細胞の形や色、柄を見ているとウキウキしてきます。

